

地方創生推進交付金・拠点整備交付金を活用した事業の検証について(報告)

【地方創生推進交付金】

- P1 ヘルSEAアイランドづくり事業
- P2 シーリゾートトライアングル構想・推進事業
- P3 湯島で生きる“島活”応援事業
- P4 上天草市「観食住」サイクル事業

【地方創生拠点整備交付金・推進交付金】

- P5 スポーツ施設を拠点とした稼げる地域づくりプロジェクト

※推進会議では各事業に対し評価いただくとともに、取組みの更なる充実に向けた助言をいただいた。

【基本目標】上天草市への人の流れをつくる
事業名：上天草市「ヘルS E A アイランド」づくり事業
 (平成29年度事業費：54,994千円／交付金21,414千円)

健康福祉部 健康づくり推進課
 経済振興部 観光おもてなし課・農林水産課
 建設部 都市整備課

重要業績評価指標 (KPI)

- ◆**観光入込客数** 事業開始前 1,423,480人
 【H29】目標 1,474,000人 → 実績1,631,537人
 最終目標 1,608,000人 (累計184,520人増加)
- ◆**前島エリアの観光入込客数** 事業開始前 263,179人
 【H29】目標 279,000人 → 実績659,958人
 最終目標 303,000人 (累計 39,821人増加)
- ◆**ヘルスプロモーションイベント参加者数**
 【H29】目標 205人 → 実績 529人
 最終目標 累計525人

事業の概要

- ◆本市の観光資源である“海”と一定の集客実績のある“健康”を核とし、インパクトのある情報発信を中心とした前島地区における観光の拠点づくりを行う。
 - ◆ヘルシーな上天草観光のイメージを定着・発信するとともに、誘客力向上、地域産業全体の強化及び人材育成を図る。
- ＜主要事業＞
 前島観光拠点化事業（イメージアップ情報発信・間伐等森林整備）、複合型スポーツ&ヘルスツーリズム（ライフキネティック事業・ヘルシーメニュー開発・人間ドックモニターツアー・遊休養殖場）、トータルブランディング事業

**担当課
 評価**

A

前島等観光拠点化事業については、松島町千巖山の景観整備、マリンランドのイメージを定着させるためのイベントのほかアニメコンテンツを活用したPR戦略を学ぶセミナーを実施した。交付金事業だけでなく、シークルーズやリゾラテラスなどのメディアの露出やSNSの情報発信の相乗効果により、前島エリアの観光入込客が目標を大きく上回った。複合型スポーツ&ヘルスツーリズム事業のうち、ヘルスツーリズムについては、ライフキネティック講座や専門家を招き、市の既存イベントに合わせて実施したことで、イベント参加者数は目標を大きく上回った。さらには、料理研究家による4品の健康レシピ提供のほか、市内観光と結び付けた滞在型人間ドックモニターツアーを実施し、メディアや企業に情報発信を行った。なお、あさり養殖の産業化に向けて実証を行ったところだが、予期せぬトラブルで予定の1/5の稚貝しか取れず、実証データの収集が必要となった。観光トータルブランディング事業については、観光ブランディング計画（案）を策定したほか、公共交通機関を使ったモニターツアーや前島地区におけるレンタカーの実証等を行い、来年度実施に向けた取組みを実施した。

改善（平成30年度における取組みなど）

前島等観光拠点化事業については、前島エリアでマリンランドのイメージをより一層定着化させるため、夏～秋にかけて事業を実施することとし、さらなる観光入込客の増加を図る。また、間伐等森林整備については、カントリーパーク花海好・維和桜花公園、龍ヶ岳山頂公園における景観整備を行う予定で、眺望の良さを積極的にアピールし、市内の周遊に繋げる。今年度策定する観光ブランディング計画に基づき、国内外への観光プロモーションを行うとともに市民や関係団体を巻き込みながら、選ばれる観光地として更なる観光資源の磨き上げを進めていく。複合型スポーツ&ヘルスツーリズムについては、昨年度市外の参加者が多かったため、本来の「市民の健康増進」に重点を置くとともに、健康メニューについては、将来的にスパ・タラソ草や市内飲食店などでの商品提供ができるよう継続性をもって取り組んでいく。また、アサリ養殖の産業化及びブランド化については、実証データが不足したため、今年度データを収集しているところであるが、ブランド名の考案やデザイン・タグの作成をし、あさりの市場定着に向けて地元漁協が主体となって活動を行えるようシフトしていく。本事業は今年度が交付金最終年度であるため、効果や実績を重視して事業を進めていく。

推進会議評価

A

- ・平成29年度は、KPIが目標を上回り今後も効果は期待できることから、交付金事業の最終年度を迎え、今後どう発展させるか、また、継続させていくか計画性を持って取り組んでほしい。
- ・「健康づくり」というキーワードは今後重要であるため、他の課と連携しながら、市民が楽しく健康で長生きできるような取組みを継続して進めていってほしい。

A 目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。 B ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。 C 目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D 目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。 E 目標値又は事業自体の抜本的見直しを要する。

【基本目標】上天草市への人の流れをつくる
事業名：シーリゾートトライアングル構想・推進事業
 (平成29年度事業費：12,483千円／交付金6,241千円)

重要業績評価指標 (KPI)

事業の概要

- ◆観光・リゾートの拠点施設が集積されつつある前島・樋合・天草ビジターセンターにおける三角エリアにおいて、観光客が一带を十分に楽しんでもらうため、体制整備及び周遊プランの造成など観光交流拠点としての魅力向上に資することを目的にシーリゾートトライアングル構想を策定し、日帰り客を滞在型観光へかえる取り組みを実施する。
- ◆近年増加傾向にあるサイクリストの利便性を向上し、さらなる誘客を目的として、配送型のレンタサイクル及びサイクルラックを導入した。

<主要事業>

シーリゾートトライアングル構想策定、配送型レンタサイクル実証実験、サイクルラック設置

- ◆**宿泊者数** 事業開始前 245,787件
 【H29】目標 258,076人 → 実績 239,835人
 最終目標 284,476人 (累計38,689人増加)
- ◆**レンタサイクル利用者数** 事業開始前 0件
 【H29】目標300件 → 実績 11件
 最終目標 累計 726件
- ◆**フィッシャリーナ天草への新規係留数** 事業開始前 0隻
 【H29】目標 0隻 → 実績 0隻 (39隻)
 最終目標 累計8隻

担当課
評価

C

平成29年度はシーリゾートトライアングル構想の策定段階であったため、宿泊者数の増加に直接寄与したものではないが、商工関係者等を構成員とした協議会を立ち上げ、それぞれの立場から地域振興に向けた意見交換が実施できた。また、レンタサイクル事業については、ロードバイクのほか3種類(計14台)の自転車で実証を行ったところ、実施時期が冬季となり利用者数は少なかったが、満足の声は高かった。フィッシャリーナの係留数については、本事業が直接増加に結びついてはいないが、既存事業による天草地域の認知度の向上に加え、オーナー等による口コミ(釣りスポットや係留料金の価格が魅力的など)により増加したと考えられる。



改善 (平成30年度における取組みなど)

平成30年度は策定した構想を基に、人材育成及び商品開発業務を実施し、さらなる入込客の増加を狙うとともに観光事業者を中心としておもてなし力の醸成を図る。また、レンタサイクル事業については昨年度の実績を踏まえ、サイクリストの利便性を向上させるとともに周知に力を入れ、さらなる誘客を図る。現在、前島エリアは車でアクセスがほとんどであることから、海上からのアクセスを可能とするために棧橋を整備する予定。これにより、当地区までに電車から船、当地区からは自転車など、車とは異なる市内周遊の魅力を発信していく。

推進会議
評価

C

- ・天草は休日もサイクリストが多く見受けられサイクリングアイランドというイメージは高まっている。
- ・レンタサイクルについては、実施時期を夏・秋にするほか、施設に常備する等、乗りたいとき気軽に乗れる環境づくりが必要。また、自転車で走りたくなるサイクリングスポットをPRするとともに、自転車を持っていない方へ車より自転車で周遊する“楽しさ”をPRするとよい。

【基本目標】上天草市への人の流れをつくる
事業名：湯島で生きる“島活”応援事業
 (平成29年度事業費：7,332千円/3,666千円)

経済振興部 観光おもてなし課
 総務企画部 企画政策課

重要業績評価指標 (KPI)

- ◆湯島定期船を利用した入込人数 事業開始前 16,284人
 【H29】目標 16,884人 → 実績 17,998人
 最終目標 20,484人 (累計4,200人増加)
- ◆湯島地区の空き家登録件数 事業開始前 0件
 【H29】目標 2件 → 実績0件
 最終目標 累計 6件
- ◆湯島地区の移住者数 事業開始前 8人
 【H29】目標10人 → 実績9人
 最終目標 16人 (累計8人増加)

事業の概要

◆島しょという条件不利を逆手に取り、湯島の地域特性を有効活用するための磨き上げとして、県内唯一の“恋する灯台”である湯島灯台を中心に癒し・ホスピタリティをテーマとした環境整備及び誘客プランの作成、移住促進の取組みを展開する。

<主要事業>

スローライフ体験ツアー、湯島灯台周辺整備、プロモーション動画作成

**担当課
評価**

B

スローライフ体験ツアーにおいては、湯島大根の収穫やかすみ草を使ったフラワーアレンジメントのほか地域おこし協力隊による島内散策ガイドなど、地元住民と触れ合えるプランは大変好評であった。また、湯島灯台周辺の雑木伐採を行ったことで景観が改善され、フォトスポットとしての観光客増加が期待できる。さらには、短編映画「島のシーグラス」を撮影し、29年度はPR動画を作成し、本編は秋公開を予定している。この撮影をきっかけに発足した「映画プロジェクト実行委員会」では、住民を中心として、撮影の炊き出しや調整などのボランティアを行ったことで今後のまちおこしに繋がるきっかけを作ることができた。

KPIの定期船の入込人数については、本交付金事業だけでなく、熊本日日新聞社の夕刊連載「猫島ありのまま」や全国ネット・熊本ローカルのテレビに取り上げられ、湯島の魅力を域外に発信し続けたことから、多くの観光客が訪れ目標を大きく上回る結果となった。一方で、空き家登録件数及び移住者数については、KPIは未達成となったが、引き続き魅力を発信するとともに、空き家バンクの周知にも注力する。



改善 (平成30年度における取組みなど)

スローライフプロモーションについては、完成した短編映画の試写会のほか映画祭へ出展を行い、湯島のみならず、本市の魅力及び知名度の向上が期待できる。また、平成29年度に整備した湯島灯台周辺の整備も含め、今後も観光客が訪れたい観光スポットとして地域と連携しながら管理を行っていく。スローライフモニターツアーについては、昨年度の内容に追加して、湯島の食材を活用したメニュー開発を行い、継続性を持って取り組んでいく。また、島内の素晴らしい景観を活用したフォトウェディングプランを構築し、「知ってもらう」から「来てもらう」取組みへ繋げていく。

**推進会議
評価**

A

- ・湯島の認知度や注目度が格段にアップし、入込客が増えており、KPI達成の有無以上に効果のある取組みであったことを評価し、本会議の評価を「A」とした。
- ・島民の“まちづくり”に対する意識が高まったことで、今後の取組みに期待するとともに、湯島での取組みが市内全体に波及していくことを期待。

A 目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。 B ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。 C 目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D 目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。 E 目標値又は事業自体の抜本的見直しを要する。

【基本目標】上天草市への人の流れをつくる
事業名：上天草市「観食住」サイクル事業
 (平成29年度事業費：46,611千円/19,055千円)

経済振興部 産業政策課・観光おもてなし課
 総務企画部 企画政策課

重要業績評価指標 (KPI)

- ◆ **1年間の新規取引件数 事業開始前0件**
 【H29】目標15件 → 実績16件 最終目標 累計45件
- ◆ **入込客数 事業開始前 1,449,000人**
 【H29】目標1,479,000人 → 実績→ 実績1,631,537人
 最終目標 1,539,000人 (累計90,000人増加)
- ◆ **移住者数 事業開始前 事業開始前0人**
 【H29】目標35人 → 実績45人 最終目標 累計105人
- ◆ **農林水産物ブランド化補助金の採択件数 事業開始前0件**
 【H29】目標10件→実績12件 最終目標 累計30件

事業の概要

◆ 6次産業を中心に産業の活性化を図ることで「仕事をつくり」雇用機会を創出する。「仕事の連携」として食と観光を横断的に事業を実施し、「仕事をつくる→呼び込む→連携する」のサイクルを継続的ワンストップで実施することで一極集中する大都市から移住者を増加させ、人口減少を抑制し市として持続可能な人口構造を確保する。

<主要事業>

6次産業化支援事業、おもてなし力アップのための観光大学運営、シティプロモーション移住促進事業 (産業体験イベント・グルメコンテスト)

**担当課
評価**

A

6次産業パッケージ事業においては、自社商品を販売先のニーズに合うよう商品のブラッシュアップを行ったほか、販売スキルの向上のための研修会や大消費地である関西・関東でイベントを開催したことで、新規取引件数及びブランド化補助金の採択件数は目標を達成することができた。
 また、市民や観光事業者を対象にした地域資源の磨き上げやおもてなし力向上のために着地型旅行商品を開発に向けたワークショップや宿泊施設を対象としたおもてなし総合診断を行った観光大学の取組みについては、近年入込客数が増えている中で「また来たい」とリピーターに繋がるよう、おもてなしの大切さ等の共通の意識を共有することができた。
 昨年に引き続き、お笑いトリオ「ロバート」秋山氏を起用したプロモーション動画を作成しネット配信したところ、再生回数は199万回を超え、TVなど数多くのメディアで取り上げられたほか、池袋・大阪・福岡のPARCOにおいてコラボカフェも開店したほか本市の知名度はさらに向上し、反響を得た。
 また、シティプロモーションによる効果に加え、移住相談会への積極的な参加 (計7回)、移住アドバイザーによる移住検討者へのきめ細やかな相談対応や28年度から創設した移住支援助成金により、市が対応した移住者数は目標を大きく上回った。さらには、本市と移住相談会場を中継で繋ぎ、移住者からリアルタイムで本市の魅力や仕事を伝えることができたほか、市の花まつりと同時開催でキッチンカーイベントを開催し、これまでの「知ってもらう」から、「食べる・体験する・来てもらう」取り組みへ繋げることができた。

改善 (平成30年度における取組みなど)

6次産業に携わる事業者のスキルアップについては生産者が「生産・加工・営業・販売」までを行うことから事業者の負担が多く全体的に低調となっているが、引き続き研修等実施し、事業者のフォローアップを行う。また、ブラッシュアップ商品の販路拡大については、今年度、販売に注力した事業展開を考えており、生産者や加工業者に頼る販売促進でなく、問屋機能をもつ事業者が間に立ち、市内製品の流通拡大を目指す。
 シティプロモーション事業については、これまでの素材を活用し、市の公式LINEやInstagramなどのSNSを活用したPRを行っていく。また、観光を推進するうえで、市民全体の観光への参画意識を高めることは重要であるが、長期的な取り組みが必要なため、観光協会等と連携しながら継続的に観光人材育成を行う。

**推進会議
評価**

A

- ・昨年度に引き続き、シティプロモーション動画の話題性や市への移住者数も増加し、本事業の実施は非常に効果があったため、今後も継続して実施していただきたい。
- ・「移住」ブームは一旦落ち着いたため、住んでいる人たちがもっと上天草を好きになり、住み続けたいと思えるような取組みも実施していく必要がある。

A 目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。 B ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。 C 目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D 目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。 E 目標値又は事業自体の抜本的見直しを要する。

【基本目標】上天草市への人の流れをつくる
事業名：スポーツ施設を拠点とした稼げる地域づくりプロジェクト
 (平成29年度事業費：65,259千円/32,531千円)

事業の概要

- ◆温泉観光地としての強みを生かしながら、スポーツ合宿誘致やスポーツ大会の開催に取り組むなど、「スポーツ」と「観光」を核とした交流人口の拡大や経済活性化による地方創生を目指し取り組んでいるところ。
- ◆本市の知名度や合宿地としての優位性をPRするとともに、本市の強みである「観光」、「温泉」、「食」と組み合わせた「スポーツ合宿」の誘致に結び付ける。

<主要事業>

キッズサッカー大会、プロスポーツ選手招待、陸上競技場及びテニスコート観客整備、陸上競技場のクラブハウス模様替え

重要業績評価指標 (KPI)

- ◆松島総合運動公園施設利用料 事業開始前 8,800千円
 【H29】目標 7,800千円 → 実績 7,741千円
 最終目標 14,000千円 (累計5,200千円増加)
- ◆入込客数 事業開始前 1,423,000人
 【H29】目標1,623,000人 → 実績1,631,000人
 最終目標 1,608,000人 (累計184,520人増加)
- ◆観光消費額 事業開始前 70.0億円
 【H29】目標 79.9億円 → 実績 114億円
 最終目標 129.4人 (累計49.5億円増加)



**担当課
評価**

B

松島総合運動公園アロマにおいて、スポーツ合宿や大会誘致促進に向け、テニスコートやサッカー場を整備しているところであるが、観客席が少なく、炎天下や雨天時に対応した屋根付きの観客席がないため、当該機能を備えた観客席の整備及び現存する陸上競技場のクラブハウスをサッカー利用に即したものに改修した。人工芝サッカー場のオープンを翌年度に控えたタイミングで、本市主催のキッズサッカー大会を開催するとともに、トップアスリートの育成や競技レベルの向上を目指す目的で、元女子プロサッカー選手によるサッカー教室を開催した。

KPIにおける運動公園の施設利用料については、体育館及び運動場の設備整備により使用不可となった期間が3か月ほどあったことが未達成に影響したと思われる。入込客数及び観光消費額については、市内の新規イベントやこれまでの観光PRの効果によりKPIを上回る結果となった。

改善 (平成30年度における取組みなど)

昨年度の設備整備をきっかけに、今年度から季節ごとに市主催のジュニアサッカー大会を開催し、市内外の比較的レベルの高いチームが参加することとし、サッカーを通じた市内の交流人口の増加及び競技レベルの向上を目指す。また、合宿誘致パンフレットをリニューアルし、市内の体育施設等のPRを積極的に行うとともに、協議関係者に設備整備を周知し、大会及びスポーツ合宿の誘致を進めていく。

また、平成29年度に交付金事業とは別に、アロマの体育館空調整備や大矢野総合体育館のトイレ整備など、スポーツ合宿や大会誘致に最適な施設となるよう併せて改修を進めたため、さらなる交流人口を拡大し、スポーツツーリズムを展開していく。

**推進会議
評価**

B

- ・本事業はスポーツ誘致を切り口とした経済の活性化を行うもの。施設の周辺には飲食店や宿泊施設が集積しており、事業の効果が期待できるエリアであり、交流人口の拡大等にもさらなる効果が期待できる。
- ・大規模な大会の誘致は距離的に不利であるため、現在増えつつある小規模な大会が継続して開催したいと思われるような良い関係性をつくると、口コミで広がっていくため、民間と協力しながら施設を拠点にした地域経済の活性化に向けて、引き続き取り組んでいただきたい。

A 目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。 B ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。 C 目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D 目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。 E 目標値又は事業自体の抜本的見直しを要する。